

定期健康診断における、BMI 低値受診者の身体症状・病歴・生活習慣等の特徴調査

一般財団法人近畿健康管理センター

【背景】

先行研究では、BMI 低値（18.9 以下）で心疾患や脳血管疾患およびがん死亡リスクが高いことが報告されているが、健康診断における低体重の統一された診断や介入基準の策定に至っていない。

【目的】

低体重の診断や介入基準検討のために、BMI 低値受診者の身体症状・病歴・生活習慣等を調査し、その特徴を明らかにすること。

【方法】

- ・2019 年度、一般財団法人近畿健康管理センター（以下、KKC）で受診された方の匿名化された健診データを BMI ごとに 4 区分（低体重・ふつう・肥満 1 度・肥満 2 度以上）し、それぞれの区分とデータをクロス集計し関連を調査した。
- ・食後の健診受診者および月経期間中の受診者データは除外した。

※倫理的配慮:本研究は、KKC における倫理委員会の承認を得て実施した。(承認番号 2020-005)

【考察・結論】

- ・男性は「低体重」に貧血が多いことが示されたが、女性では「ふつう」該当者の要精査率が「低体重」者をうわまわった。
- ・脂質、肝機能、血圧、心電図で低体重者の所見率が低いことがわかった。
- ・継続的に胸部 X 線、病歴、自覚症状などの調査をすすめ、低体重者の課題抽出をすすめる。

第 94 回 近畿産業衛生学会（2021 年 5 月）にて発表